学術会議声明批判

戸谷友則（東大・理・天文）

平成３０年９月１９日
日本天文学会秋季年会

特別セッション「安全保障と天文学II:-声明作成に向けて-」

なんで私がこんなハメに…

- これほど気乗りしない講演は初めてです
- この問題はどうしても政治的になる。多様な意見があると理解している。
- しかし、学術会議が主導する議論では、意見の多様性を認めず、特定の見解を全ての研究者に押しつけている印象があり、違和感・反感を持っている
- そこで学会の意見窓口にメールだけしておいた。それ以上、表にでて発言する気なし
- 届いた意見は２件だけだったらしい（！）
- 柴田学会会長から今回の講演依頼
  - その際、会長の気になる一言「戸谷君の率直な意見・提案が若者たちにどんな意見でも自由に議論する雰囲気を作ってくれると思うのでぜひよろしくお願いします」
- 「若者には意見を言いづらい雰囲気」がある！？

この議論は健全に進んでいるのか？

- 若者が容易に意見を言いづらい雰囲気は、私も感じています
  - 私の周囲の若手からも、「多様な意見を認めない雰囲気があるのが残念」という意見を聞いています
- なぜか？
  - 学術会議という権威ある組織が、すでに一面的な結論を出してしまっている
  - 天文学会でこの議論をリードし、発言しているのは、学術会議関係者を含む「偉い先生」が多い
  - 偉い先生でも個人の意見を言うのは自由だが、学術会議の権威を背景に、学術会議声明に合致する形で学会の意見をまとめようという意図（魂胆）がありありで目に余る
- このような中で、若手が反対意見を述べにくいのは当然。現在の学会での議論は健全な形で進んでいるとは言いがたい。
- 偉い先生方には一度、この点を考えていただきたい

偉い人には、それがわからんのです。

※画像はweb公開版では自粛

安全保障に関する学術会議声明の検討

1－49

昭和25年4月28日

日本学術会議第6回総会

戦争を目的とする科学の研究には絶対従わない決意の表明（声明）

日本学術会議は，1949年1月，その創立にあたつて，これまで日本の科学者がとりきたつた態度について強く反省するとともに科学文化国家，世界平和の礎たらしめようとする固い決意を内外に表明した。

われわれは，文化国家の建設者として，はたまた世界平和の使として，再び戦争の惨禍が到来せざるよう切望するとともに，さきの声明を実現し，科学者としての節操を守るためにも，戦争を目的とする科学の研究には，今後絶対に従わないというわれわれの固い決意を表明する。

- 昭和25(1950)年の声明「戦争を目的とする科学の研究は行わない」
  - 個人的には異存なし（そりゃ誰でも戦争はしたくない）

安全保障に関する学術会議声明の検討

- 昭和42(1967)年声明

7－29

軍事目的のための科学研究を行なわない声明

（中略）

ここにわれわれは、改めて、日本学術会議発足以来の精神を振り返って、真理の探究のために行われる科学研究の成果が又平和のために奉仕すべきことを常に念頭におき、戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わないという決意を声明する。

- 声明本文では昭和25年と同じ「戦争を目的とする研究は行わない」
- なぜか唐突に声明タイトルで「軍事目的のための研究を行わない」という文言
  - 「軍事研究」＝「戦争目的」という考えが前提
- 以後、「軍事研究の禁止」と受け取られて一人歩きした感がある

軍事 vs. 戦争・平和

- 学術会議声明「軍事研究を行わない」
  - この考えに社会的なコンセンサスが得られているとは思えない
- 誰だって戦争より平和がいいのはあたりまえだが…
- 軍事＝戦争であり、平和の敵？
  - 軍事と、戦争／平和はそう単純な関係ではない
  - 軍事が戦争の惨禍を生み出す一方で、平和を生み出し維持するのもまた軍事というのが現実
- ある国が軍事研究を禁止すれば、それは人類の平和と幸福につながるのか？
  - 逆に世界の平和が損なわれる可能性もいくらでも考えられる
  - 例：民主的な国々の軍事力が弱体化し、そうでない国々がのさばる
- 日本はその安全保障を米国の軍事力に依存している状態
  - そんな国が平和主義から「軍事研究はしません」と言って、世界から尊敬されるだろうか？

軍事研究を行ってはならない根拠？

- 研究倫理、生命倫理になぞらえて、倫理の観点から軍事研究を規制すべき？
  - 人類の幸福という究極の目標を掲げても、軍事がプラスかマイナスかは判断が難しい
  - 倫理というより、「政治的な問題」ではないか？（≒憲法９条、自衛隊…）
  - 政治の問題である以上、様々な意見や立場を尊重すべき
  - 多くの人があまり発言していないのも、政治性を感じるから
  - 学術団体が政治的な問題について一面的な結論を出し、全ての人をそれに従わせようとするのは、私の感覚では「ありえない」
- 非公開研究だから規制すべき？
  - 軍事研究と非公開研究は一対一対応ではない（防衛省の助成は公開可能、民間企業との共同研究でも企業機密の問題がある）
  - これを問題にするなら、軍事研究はひとまずおいて、別に非公開研究の是非の議論を立ち上げるのが筋

多様な意見を大切にすべきでは？

- 軍事研究に対し、多様な意見があるのが現状であり、それが健全である
- この問題は安易に一つの結論を出すべきものではない
  - たかが学術会議ごときにポンと正解が出せるような生やさしい問題ではない
- 安易に一つの結論を出し、全ての人にそれを強要するような動きこそ、戒めるべきではないか？

- 結論：「軍事研究を行わない」という考えを全ての研究者に押しつけるのはあまりにも無理な話

学術会議声明の問題点

- 日本の学術界のトップに君臨する権威ある団体が、多様な意見の存在を無視して「軍事研究はしない」という極めて一面的な結論を出してしまったこと
- さらに平成29(2017)年声明では、上記結論を踏襲すると宣言した上で、各大学・団体に審査制度をつくることを要求
- 全ての研究者に対して「軍事研究の禁止」を実効的に強制する意思の表明と受け取らざるを得ない
  - 実際、マスコミ報道などの論調はそうなっている

研究者の自由の危機なのではないか？

- 北大のケース
  - 学術会議声明を受け、大学として防衛省の研究助成の辞退を決定
  - これまで助成を受けていた研究者は助成を受ける自由を失った
  - 非常に恐ろしいことだと感じました
- 防衛省の研究助成について、賛否両論あるのはわかるが…
  - 基本的事実： 応募したい人が出す。出したくない人にまで出すことは強制していない
  - 一方、学術会議は…全ての研究者に「出さないことを強要」
- 政府や防衛省などより、学術会議の方がよほど常軌を逸している
  - 学術会議は思い上がっているのではないか？自分の意見を下々に押しつけるのではなく、意見の多様性や自由の保護こそ、学術会議がやるべきことではないのか？
- 各大学・研究機関には、学術会議の圧力に屈することなく、研究者の自由と権利を守ってもらいたい

戦前の裏返し

- 「国家がほろんだ反動として日本じゅうに、自国嫌悪の気分がおこった。その気分がいまもつづいていて、戦後日本的な社会主義願望やコミュニズム志向になったようにおもえる。そういうイデオロギーによる戦後の日本観も信じられなかった。単に戦前の裏返しにすぎないとおもったのである。」
  - 司馬遼太郎「街道をゆく・神田界隈」（1995年）
- 「軍事を一切否定する、戦後日本的な平和主義というイデオロギー」と読み替えても通じる
- 個人でどのようなイデオロギーを持とうが勝手ですが…
- 一つのイデオロギーを全ての研究者におしつけ、さらには従わないものを審査制度で取り締まるというのは、立派な「戦前の裏返し」

そもそも学術会議とは一体何者なのか

- 学術会議ホームページによれば…
  - 「新たな会員の選出は、現在の会員が候補者を推薦し、学術会議自らが選考する」
  - 学術会議の外の人間は一切関われない
- 一部の偉いお年寄りの「仲良しクラブ」ではないか
- 一般研究者の民主的な代表とは言いがたい。国民、市民の代表でもない。
- 「学者の国会」では断じてない
- そのような非民主的・閉鎖的な団体が、日本で最高の権威を持ち、ひとたび声明を出せば大学や学会も萎縮し、忖度してしまう
  - その結果、研究者個人の自由が侵害されてしまう
- 日本の学術コミュニティにおける極めて深刻な問題なのでは？
  - 軍事研究の是非などより、この問題を先に議論すべき

学術会議という組織の問題

- 安全保障問題だけではない
- 大規模な科学プロジェクトの選定は学術会議が取り仕切っている
  - 非民主的な「私的クラブ」が、ボトムアップを旨とする基礎科学プロジェクトに関する重大な決定を行っていいのか？
  - 大プロジェクトの採否では、どこかでトップダウンの決定も必要でしょうが、その決定をする人たちはあくまでボトムアップのプロセスで選出されるべき
  - プロジェクト計画を学術会議に認めてもらわないといけない立場の人が、軍事研究に関する学術会議声明を堂々と批判できるだろうか？
- 学術会議を批判することは、非常に勇気がいる
  - 日本政府を批判するのは簡単。民主的に選ばれているから
  - 学術会議は非民主的な組織でありながら、強大な権限をもっている

学術会議に求めたいこと

- 私が求めたい三箇条
  - 「軍事目的の科学研究は行わない」という文言をただちに撤回すること
  - 非民主的な団体であるにも関わらず、全ての研究者に特定の見解を押しつけ、自由を奪いかねない状態をつくったことについて、真摯な反省を行うこと
  - 開かれた民主的な組織に生まれ変わるための、自己改革の道筋を早急に示すこと
- 学術会議がこれらの対応をしない限り、私はこの問題に関して学術会議の言うことに耳を傾けるつもりはない
- 民主化に向けて自己改革する意思や能力がないのであれば、学術会議は潰して、より開かれた新しい枠組みを作るべきでは？

日本天文学会としてどう対応するか、一会員の意見

- 天文学会として声明を出す？
- 学術会議声明を無批判に支持する声明には絶対に反対
  - 「軍事研究の禁止」を前提としたガイドライン、審査制度もむろん反対
- 学術会議声明・学術会議そのものの問題点を批判する声明を出すべき
  - 最低限、そのような批判意見があったことを盛り込んで頂きたい
  - 学会の声明は、多様な意見を盛り込んだものであるべき

- そもそも声明を出す必要があるのか？
- 他の学会などではこのような議論はほとんど行われてないという
  - 学術会議のやっていることについていけないが、表だって反対も怖くてできないので、皆、黙っているのでは
- 声明を出さず、放置するというのもよいのではないか
  - 「学術会議の声明など無視しても良いのだ」という認識を日本の研究者全体で共有することが大切

多数決で決めれば、個人の自由は制限されていいのか？

- 「軍事研究は禁止」という意見が多数であれば、全ての人に軍事研究の禁止を強制していいのだろうか
  - 「個人の自由に任せる」というオプションがある問題について、多数決で一面的な結論を出し、全ての人に同じ行動を求めることは避けるべき
  - 多数決ではなく、全会一致で採択できるような声明案になるまで採択すべきでない
  - 学会執行部やWGだけで採択を強行するのは論外
  - 全会員に対する意見調査をなぜしないのか？
- 学術会議声明(H29)の採択の経緯
  - 声明案の作成委員会は、重要な声明なので総会での採択を求めていた
  - 実際には、総会を経ずに幹事会で決議されてしまった
    - 幹事会で出た意見「総会で紛糾してまとまらない恐れがある」
  - 天文学会ではこのような愚行が繰り返されないことを祈ります

全会一致で出せそうな声明の一案

- 学者のコミュニティとして、第２次大戦時の日本の状況を反省するのであれば、「軍事研究をしたくない人まで動員された」という点に尽きるのではないか
- 「学問の自由」を宣言し、「軍事研究をしたくない人に強制的に行わせるようなことは拒否する」と言った声明なら、まず反対はでないのでは
- 全ての人に「軍事研究の禁止」を無理に押しつけるから、話がややこしくなる